

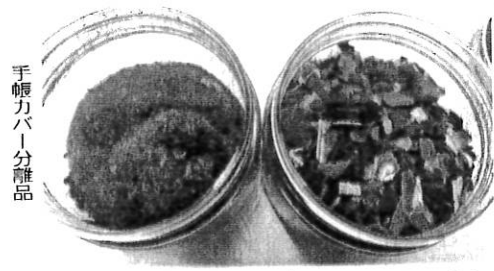
週刊 循環経済新聞

JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times

エコロ 手帳表紙の塩ビを分離再生

日本能率協会マネジメントセンターと提携

プラスチックリサイクルなどを手掛けるエコロ(本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長、☎049・265・8390)は4月から、日本能率協会マネジメントセンター(本社・東京)とアライアンスを組み、手帳(NOLTY・PAGEM)の表紙に使われている塩ビ・不織布(複合材)を粉碎、分離選別し、回収した塩ビをマテリアルリサイクルにまわす事業を始めた。同社がこれまで5年間で培ってきた壁紙のリサイクル技術を応用した。後藤社長は、「日本能率協会マネジメントセンターから話をいただいたから準備に約1年かかった。手帳の表紙は複合材であり、これまでリサイクルが難しかった。新たなマテリアルリサイクルで貢献したい」と述べている。



手帳カバー分離品

プラスチックリサイクルなどを手掛けるエコロ(本社・埼玉県富士見市、後藤雅晴社長、☎049・265・8390)は4月から、日本能率協会マネジメントセンター(本社・東京)とアライアンスを組み、手帳(NOLTY・PAGEM)の表紙に使われている塩ビ・不織布(複合材)を粉碎、分離選別し、回収した塩ビをマテリアルリサイクルにまわす事業を始めた。同社がこれまで5年間で培ってきた壁紙のリサイクル技術を応用した。後藤社長は、「日本能率協会マネジメントセンターから話をいただいたから準備に約1年かかった。手帳の表紙は複合材であり、これまでリサイクルが難しかった。新たなマテリアルリサイクルで貢献したい」と述べている。

が、SDGsへの取り組みとして、表紙部分のリサイクルも検討することになった。

今回のプロジェクトは、この課題に対応するもの。廃棄業者で分離選別された表紙部分をエコロの「綾瀬リカバリーセンター」(神奈川県綾瀬市)で破碎、比重差選別して塩ビと不織布成分とを分離す

生原料として利用されている。

当面は関東エリアを中心に取り組みを広げ、その他エリアにも展開する予定。CO₂排出抑制も考えオンサイトマテリアル事業も意識しているという。近く、塩ビを使ったフェイクレザーなどの複合素材についても、リサイクルを行うことを計画している。今後について、後藤社長は「色々な排出事業者と相談をし、プラスチック資源循環法で定める計画の大臣認定への申請も検討する」と述べている。